

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP	学習成果
演習	川上 哲	演習	4		1,2,3,4	1,2,3,5	1,2,3,4
授業概要 授業目的	この演習では、政治学や行政学の立場から日本の政治や行政の諸問題を扱っていく。前期は自らの問題関心を深めてもらうため、日本の政治や行政に関わる文献輪読を通じた討論を行う。後期はより掘り下げた論点に関する討論を行い、卒業研究を仕上げることを目的とする。 この演習には日本の政治や行政に関心がある学生の受講を求める。一人複数回は必ず報告する機会を設けるので、自らの報告を分かりやすく伝えるための訓練の場として積極的に活用してほしい。また適切な質問や議論は、自らの問題意識を深める格好の機会であることも学んで欲しい。						
到達目標	①日本の政治や行政への問題関心を深める。 ②自らの見解を分かりやすく伝えることができる。 ③卒論作成を通じ、科学的な態度を身に付ける。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	導入（ガイダンス）、研究倫理		16	中央省庁の意思決定方式			
2	行政サービス		17	予算編成過程			
3	官僚制		18	行政活動			
4	アメリカ行政学		19	行政管理			
5	日本の行政学		20	行政改革			
6	現代国家の政府		21	行政統制			
7	中央地方関係		22	行政責任			
8	議院内閣制		23	二元代表制			
9	省庁制		24	中央地方関係論			
10	現代公務員論		25	卒業研究の内容についての個別報告			
11	官僚制分析		26	文献・資料の収集状況についての個別報告			
12	官僚制組織		27	卒業研究の構成についての個別報告			
13	第一線職員		28	卒業研究についての個別指導			
14	官僚制批判		29	卒業研究—研究内容の個別報告			
15	政策形成と政策立案		30	卒業研究—質問と討議			
予習内容 復習内容	毎回の授業で扱う文献の指定箇所を事前に読み、疑問点を整理しておくこと。 授業後に議論の内容を整理し、疑問点を解消しておくこと。						
教科書	受講生と相談して決める。						
成績評価	評価は出席時の発言内容（50%）と報告内容（50%）で評価する。						
実務経験							
その他 特記事項	本科目は演習科目であるので、毎回の出席は当然のこととして参加すること（無断欠席は大きく評価を下げる）。 また、受講生には議論への積極的な参加＝発言を求める。						